

「ラーメンと拳銃？」

もりもとの中国通信

いつもお世話になります。いつも当メルマガに目を通して頂いてありがとうございます。

趣味と実益？を兼ねて、日ごろから中国関連のニュースを探してネットサーフィンしている私なのですが、ここ数カ月ほど「蘭州ラーメン」がホットワードになっているようです。東京や大阪などでも新規出店が相次いでいるようで、ビジネス系のテレビ番組でも紹介されていました。

私も20数年前の留学時代から蘭州ラーメンのファンでして、特にお金がない時によく利用していました。当時は確かラーメン1杯3.5元（そのころのレートで50円くらい）だったと思いますが、だんだん値上がりして今では15元~20円くらいでしょうか。それでも全体の物価が上がっているので、安くてお腹がいっぱいになる、懐にありがたい料理ですね。

中国でもいたるところで“蘭州拉面”“西北拉面”の看板を見かけますがその裏側をレポートされている記事がありましたのでご紹介します

『主要産業が銃密造から牛肉麺に！』ハーバービジネスオンライン／

<https://hbol.jp/116822>

ちなみに私が好んで注文するのは、汁なしの拌麺と呼ばれるものです（通称“大盤”ターパン）。

香菜抜きもできますので、もし機会がありましたらお試しくださいませ。

おいしいですよ～！



さて、3月末にも1週間ほど訪中していたのですが、いろいろと話を聞いてきましたので、ご紹介します。

① 環境保護政策がいよいよ本格化

昨年来より話題になっている石材業界に対する規制強化ですが、今年に入り更に一步進んだスクリーニング（騒音、石粉、労働病、税務などの基準検査）を行い、工場の淘汰が進みそうな気配があります。

政府の発表した文書によれば、昨年の調査時には1168社あった石材工場（一人親方の小さい工場を含む。恵安地区のみ）のうち、すでに1／3以上が閉鎖に追い込まれているという話も出ています。

② 「脱日本」の加速化

今年の春節を境に、それまで日本向けの製品を生産していた工場が国内向に転業したという話を多く聞きました。輸入統計などを見れば顕著なように日本向けの輸出量が下り坂な一方で、中国国内の建材や墓石が堅調で、国内商売は集金面で不安はあるものの、納期や品質が比較的緩いというのが理由のようです。この趨勢もしばらく続くように思われます。

③ 労働者不足が鮮明に

彫刻工場などで小さい子供が石を叩きながらバイト（？）している姿を見かけなくなって久しいですが、バブル期の日本でも“3K”と呼ばれる肉体労働が避けられていたのと同様、現在の中国でも従業員、特に若い人材が集まりにくくなっており、どの工場でも平均年齢が40歳を上回るようになってきています。それに加え、数年前の一人っ子政策緩和の影響でしょうか、女性の工員さんも減ってきているように思います。従来は手磨きの工程は女性が担当していることがほとんどだったのですが次第に男性に置き換わっているようです。



いずれも我々の業界に大きなインパクトがありそうですので、引き続き追跡調査して参りたいと思います。

今月は以上です。また来月のメルマガもご期待ください。

2018/5/1 森本